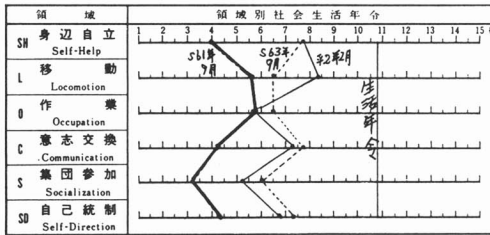


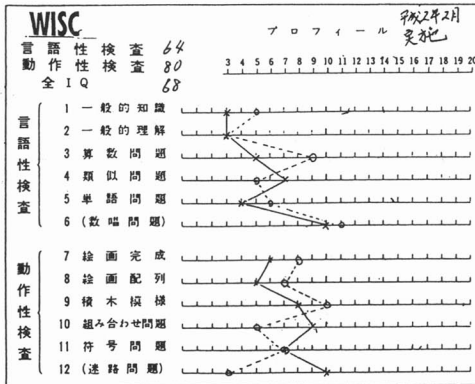
童話などの音読はできるようになった。

(2) 社会生活能力検査



所見 身辺自立に関する基本的な生活能力、行動能力は発達しているが、社会生活への参加能力及び作業遂行に関する能力は、同年齢児に比べ約3年~4年の差がわかる。

(3) 知能検査



言語性比べ、動作性の発達が全体により、中でも単純作業とがんばる力が伸びている。

4. 指導援助の目標 (主に言語面)

- (1) 話したり、聞いたりする体験を変容の状況に即して与え、会話を可能にする。
- (2) 大好きな寸劇をとおして、言語の相互性に気づかせ、周囲にも関心をもたせる。

5. 指導援助の方針

- (1) 気持ちが自由に表現できるように、受容と共感を原則として接していく。
- (2) A男がリードする寸劇や、トランポリンを中心とした遊戯療法を継続していく。
- (3) 学校集団や社会の一員としての行動がとれるよう、ルールのことも働きかけていく。(例えば、返事、相手の話をよく聞く、場に即したお話や質問など)
- (4) 好ましい言動に対しては、認め、そして賞賛する。

6. 指導援助の実際<来所相談からの一部> ※遊戯療法の補助員T_{1, 2, 3} =大学生

ねらいと働きかけ	A男の活動状況と対応	考察
<p><初回></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラポールをつくり情緒の安定を図る。 ・ 話を受容してやり、表情を大きくしながら共感し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T₁を見るなり「あのね…」声大きくはずんでいる。自己紹介「ぼくA男よろしく」母にいわれておじぎをする。T₁へ「コマーシャルって何?」「きゅうきゅうしゃって、どうのこと?」T₁とトランポリンを跳びなが 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久し振りの出会いに、はじめ興奮気味。自己紹介で少し落ち着く。話は一方的だが、T₁の